

豊島廃棄物等処理事業について

1. 豊島廃棄物等のこれまでの推計量と今回の推計結果について

(1) これまでの推計量

項 目	体積(千m ³)	重量(千トン)
処 理 対 象 量	5 6 2	6 6 8
処 理 済 量	3 9 1	4 4 6
残 存 量	1 7 1	2 2 2

(平成23年3月末現在)

(2) 今回の推計結果

項 目	体積(千m ³)		重量(千トン)	
		増減量		増減量
処 理 対 象 量	6 2 2	6 0	9 0 5	2 3 7
処 理 済 量	3 2 0	▲7 1	4 4 6	—
残 存 量	3 0 2	1 3 1	4 5 9	2 3 7

2. 処理対象量の増加の要因について

(1) 体積の増加の要因

①測量結果による増加分(約33千m³)

㊦平成7年の公害等調整委員会の調査結果をもとに予測していた廃棄物底面よりも下、あるいは山側のさらに外に廃棄物(つぼ掘りを含む)

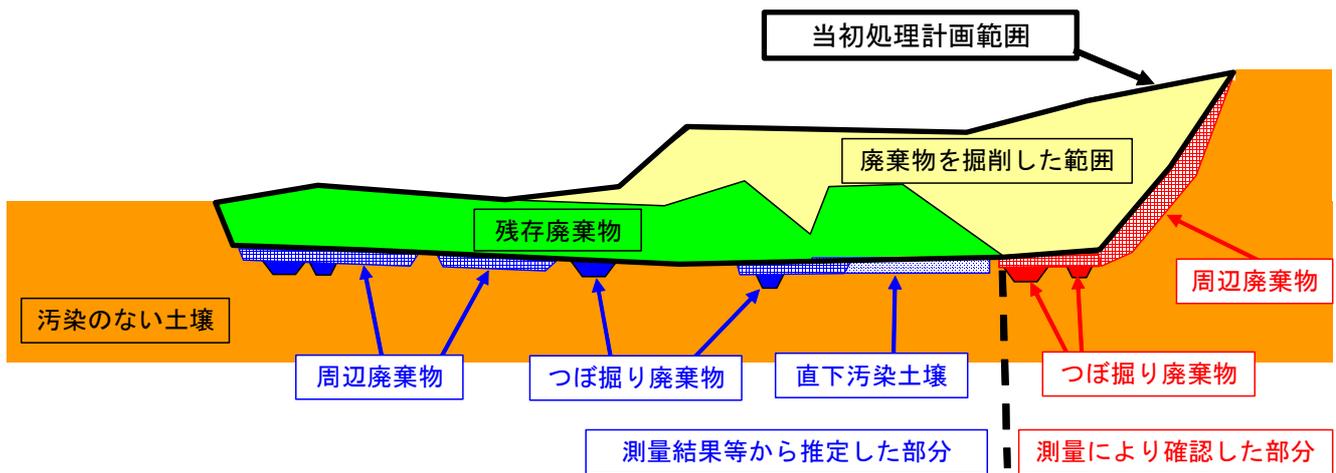
次頁上図赤色「周辺廃棄物」「つぼ掘り廃棄物」の部分。

①暫定的な環境保全措置や進入道路の設置工事等の際に、外部から処分地内に搬入した土砂等が廃棄物等と混ざってしまい、結果として処理せざるを得なくなったもの

②県の推定による増加分(約27千m³)

①㊦の廃棄物が処分地全体に及んでいるものとして推計した廃棄物(つぼ掘りを含む)

次頁上図青色「周辺廃棄物」「つぼ掘り廃棄物」の部分。



(2) 重量の増加の要因

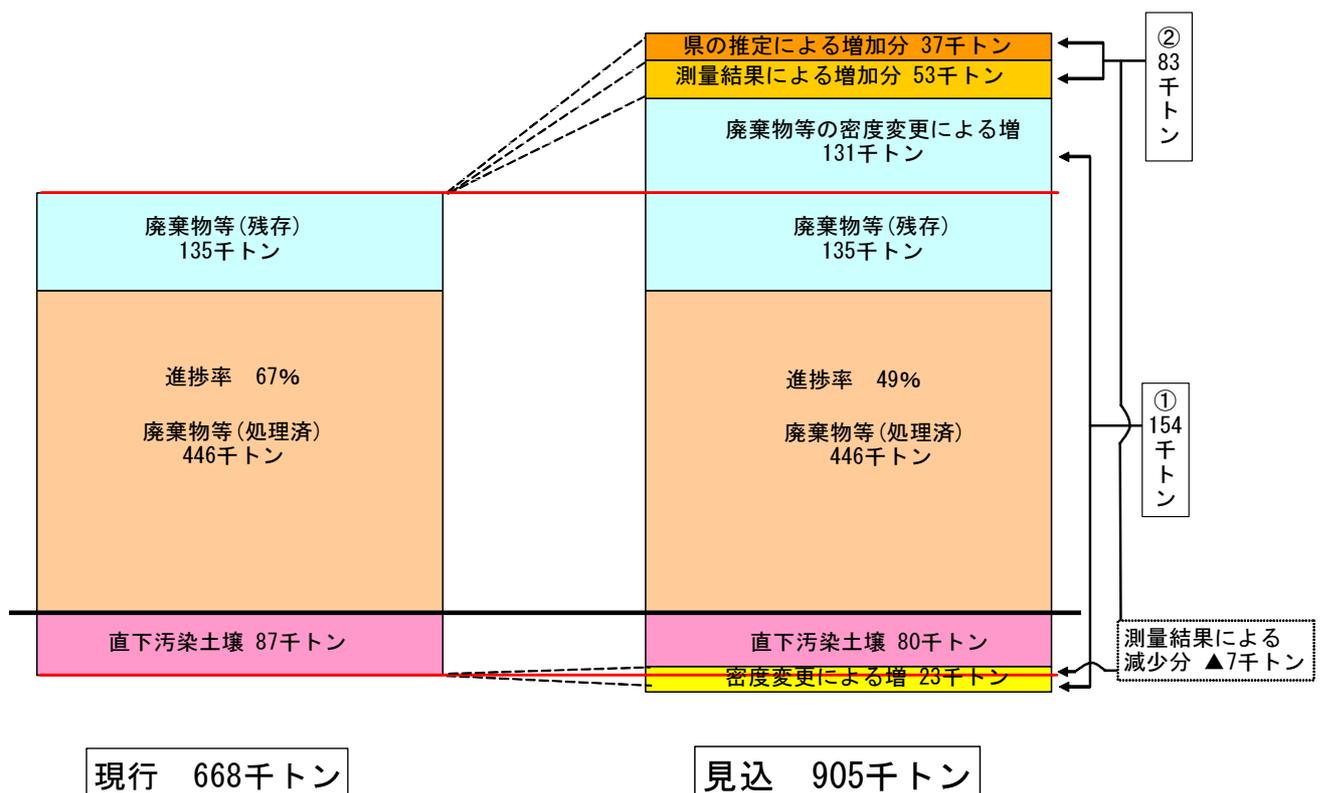
① 廃棄物等の重量を推計する密度の増加

今回の測量等の結果は、これまでの廃棄物等・直下汚染土壌の平均密度を大きく上回るものであった。

- ・ 廃棄物等の平均密度 1.14トン/㎡ → 1.39トン/㎡ (約131千トン増)
- ・ 直下汚染土壌の平均密度 1.75トン/㎡ → 2.24トン/㎡ (約23千トン増)

② 測量結果と県の推定による増加 ((1)①②参照)

- ・ 測量結果による増加分(約33千㎡)に伴う増 (約46千トン増)
- ・ 県の推定による増加分(約27千㎡)に伴う増 (約37千トン増)



3. 処理期間と処理経費について

①処理期間

今回の処理対象量の増加により、処理期間は**3年6カ月延び**、事業の終期はこれまでの平成24年度末から、**平成28年9月**となる見込み

②処理経費

項目	現行(平成15年度から24年度)	見込み(平成15年度から28年度)	増加額
総事業費	約330億円	約467億円	約137億円
国の支援	約185億円	約283億円(要望額)	約98億円

- ・ 処理対象量の増加、期間の延長による通常経費の増加に加え、使用開始後10年以上を経過する中間処理施設の大規模な補修を加味
- ・ 廃棄物等を全量撤去した後の処分地地下水の浄化に概ね2カ年程度要する経費等としてさらに約4億円要する。

今回の見直しによる処理対象量や処理期間等については、現段階での推計であり、掘削が完了しないと量は確定しないため、今後増減する可能性がある。

4. 今後の対応について

- ①毎年、年度末に測量調査を実施し、処理済量を体積ベースで把握するなど、より正確な進行管理に努める。
- ②豊島廃棄物等管理委員会の指導・助言を得ながら処理量アップ対策に努める。
- ③産廃特措法の期限延長と既存の枠組みでの財政支援について、本県同様、期限延長を要望している他県とも連携しながら、国に対し、強く要望する。